



茨城のスポーツ少年団

Junior Sport Clubs



2021.3.29

Vol.41

結びに、各スポーツ少年団の皆さま方のさらなるご活躍を祈念し、挨拶いたします。

スポーツ少年団活動におきましては、こうした状況の中ではありますが、新しい生活様式や習慣を取り入れ、スポーツを楽しむながら子どもたちの健やかな成長を促し、地域とのキズナをより一層深めていただけますよう念じてやみません。

大会では唯一、バレーボール競技が開催されましたが、開催にあたっては感染症対策を徹底するなど、ご理解とご協力をいただき、関係者の皆さまには改めて感謝する次第です。

昨年では唯一、バレーボール競技が開催されましたが、開催にあたっては感染症対策を徹底するなど、ご理解とご協力をいただき、関係者の皆さまには改めて感謝する次第です。

大会では唯一、バレーボール競技が開催されましたが、開催にあたっては感染症対策を徹底するなど、ご理解とご協力をいただき、関係者の皆さまには改めて感謝する次第です。



茨城県スポーツ少年団
本部長 高山 能昌

ガンバッテいきます!!

県北

高萩空手道スポーツ少年団

団長 高埜 亮太

高萩空手道スポーツ少年団は、平成17年に前代表の津谷順三先生が立ち上げた空手道少年団です。現在小学生を中心に25名が日々活動し、汗を流しています。

当団では、空手道を通し、礼儀や助け合いの心、感謝の

心を学んでほしいと考えています。令和元年度末からのコロナ禍により、通常の練習もままならない状況が続き、令和2年6月に感染予防策を実施しながら、何とか練習を再開しました。久しぶりに道場で顔を合わせた子どもたちの

笑顔を見た時は、指導員としてもこれまで当たり前のように練習できた環境に改めて感謝するようになりしました。

「礼に始まり、礼に終わる。」という言葉に代表されるように空手道では礼儀・礼節を大切にしています。団内での挨拶や言葉づかいはもちろんですが、家庭や

東金沢バドミントンスポーツ少年団は、県北の日立市で活動しており、小学生から高校生までの総勢33名が所属しています。団員の中には、リーダーが10名在籍しており、私も小学4年生から入団し、リーダーの経験を経て、現在は指導者として、週に一回子どもたち

学校生活においても、実践できるよう指導しています。団では、保育園児から中学2年生までが学年の垣根を越えて活動しています。その中で、年少者が上手にできない時には、年長者がアドバイスを声掛けするなど、助け合いの心が育てられるように努めています。



県北

東金沢バドミントンスポーツ少年団

指導員 鳥谷部 彩子

と一緒に楽しく汗を流していきます。

バドミントンを通して、体力の向上だけでなく、スポーツの楽しさ、学年を超えて仲間を思いやる心、そして感謝の気持ちを育てていきたいと思っています。

今回のコロナ禍で、練習の再開は6月からとなり、各種



取手市
取手市スポーツ少年団
少林寺拳法部
酒井 道雄さん



日立市
塙山スポーツ少年団
伊藤 智毅さん



日立市
豊浦野球スポーツ少年団
矢崎 浩二さん



大洗町
大洗町空手道
スポーツ少年団
齋藤 仁さん

日本スポーツ少年団
表彰楯授与式

水戸

緒川空手道スポーツ少年団

代表 坪司 一

大会や毎年恒例の夏合宿が、残念ながら中止となってしまいました。新しい生活様式を踏まえた活動は、まだ手探り状態ですが、子どもたちは元気一杯にバドミントンを楽しんでいます。

今後もコロナに負けず、団員、指導者、役員、スタッフ一丸になり、できることを精一杯頑張っていきます。

昭和63年に設立した当少年団も、今年は公式試合等に参加することは出来ませんでした。空手道は勝敗が全てではありませんが、その試合から抽出される勝敗の素材は、現実の要素として子どもたちの

人格形成に大きく寄与するものと感じております。試合後の相手との握手、勝って仲間との歓喜やハグも、過去の所作として、過去のものなのかもしれません。

しかし、子どもたちは、稽古での成果を発揮する機会を失ったにも関わらず、マスク姿で元気に道場に通ってきます。危機管理体制を整え玄関前ではアルコール消毒と検温をし、道場の中では換気をするのがルーティーンとなりました。

今はスポーツ愛好家に関わ

らず、全ての国民が耐える時期であると認識し、更に危機に強い体制づくりを強化し、文武両道、文武不岐を掲げ、空手道の真髄を形骸化することなく伝承していきたいと考えています。



持続可能なスポ少への期待

日立市塙山少年団 伊藤 智毅

一九八〇年から塙山スポーツ少年団のGMとして団運営に関わり四十年が過ぎました。この間、日立市スポ少本部の常任理事として十五年が過ぎ、主に広報紙の編集を担当しています。

塙山スポ少は、サッカー、軟式野球、ミニバス、剣道四部の平行運営でスタートしましたが、現在はサッカーと野球の二部（団員二三名）の運営となっています。一九八一年日立市と塙山小の児童数がピークで団員数は三百人を超え入団率も二五％でしたが、現在児童数はピーク時の三五％に激減、連動する形で団員数も激減しています。全国的に少年団運営に危険信号が点り、コロナ禍の影響も受け、多くの指導者が日々苦勞をしています。

今年はコロナ禍で子どもたちも休校や修学旅行、運動会など学校行事やスポ少活動も自由にできない異例の経験が余儀なくされました。一日でも早く収束モードに移行して子どもたちが心身共に健全な生活に戻れることを願い、持続可能なスポ少活動も期待しながら受賞に深く感謝を申し上げます。



水戸市
水戸市常澄野球
スポーツ少年団
庄司 誠さん



行方市
玉造山王空手道
スポーツ少年団
萩原 正巳さん

水戸

那珂市水泳スポーツ少年団

指導者 中村 光延

当少年団は、昭和56年、故秋山秀雄先生が創設され、平成19年には日本水泳連盟より優秀団体表彰の栄誉を受けました。

現在、那珂市総合公園の屋内温水プールで、小学2年生から中学2年生までの団員56名、指導者11名で活動しております。習熟度に合わせ、初心者から上級者に分かれ、例年8月の茨城県スポーツ少年団スポーツ大会を目標に練習に励んでいます。しかし今年

は、新型コロナウイルス感染症の影響により6月からの活動となりました。

活動は、水泳中心となっていますが、4月には茨城県民の森ハイキング、12月のクリスマス会、3月の6年生を送る会も開催しています。そして発行第35号となる文集「かっぱの子」は、団員の寄稿をまとめて年間行事の思い出を形に残しています。来年は40周年記念号として、過去10年間の活動を記事や写真で振り返り、世の中の変遷も併せて記録として残したいと考えています。



今後私たちは、団員・保護者・指導者が、水泳を通して共に成長していくことを目指します。今まで出来なかったことが出来るようになる喜びや、楽しい事・辛い事などを思い出してたくさん残せるように、活動を続けて行きたいと思えます。

鹿行

旭ジュニアソフトテニススポーツ少年団

代表指導者 清水 政信

旭ジュニアソフトテニススポーツ少年団は、発足から19年目を迎えました。

本少年団には、小中学生53名が所属し、『明るくあきらめない心』をモットーに、土曜日や日曜日に活動しています。また、各市主催の大会や小学生ソフトテニス連盟主催の大会にも積極的に参加しています。

ソフトテニスは、2人1組



ソフトテニスには、2人1組のダブルスが多いので、ペアと協力しながら1点ずつ取る事が大切な競技です。また、ペアと一緒に強い心を持ち続け、粘り強く戦うことも必要です。本団員も互いを思いやり、粘り強い心がもてるよう練習に励んでいます。また、「今、何を練習しているのかを常に考える」ことを習慣づけ、試合に生かせるよう取り組んでいます。自分で考える習慣は、今の子どもたちに必要な資質・能力です。中学生ぐらいになると実感してくると思います。保護者にもそのことを伝え、我が子を支援してもらえようお願いします。

これからも団員、保護者、コーチが協力し合い、明るくあきらめない心を持ち、日々練習に励んでいきたいと思えます。

鹿行

鉾田陸上スポーツ少年団

代表者 野原 照男

鉾田陸上スポーツ少年団は、平成28年にスタートし今年で5年目の活動となります。

設立当時は人数も少なく、練習場所や器材も無く、ゼロからのスタートでしたが、この5年間で団員数は約70名まで増えました。団員構成は鉾田市近郊の小学1年生から小学6年生まで幅広く所属し、指導者・スタッフは7名で運営しています。

大会が限られており、競技を続ける環境作りが課題です。新型コロナウイルスの影響により、以前のような活動は未だ行えていませんが、保護者の協力のもと、団内で記録会を開催することが出来ました。久しぶりの大会形式での競技に団員も緊張した面持ちで励んでいました。

今後、子どもたちが将来につながる自信を身に付け、陸上競技を行って良かったと思えるような活動にしたいかなければと思っています。

団活動は、毎週土曜日の午前に行い、活動場所は市内の小学校校庭や体育館、鉾田総合公園陸上競技場などで、様々な環境下でも実力を発揮できるよう、工夫をしながら活動しています。また、団員の成長に合わせた練習を行い、常に目標意識を持たせるよう工夫が続けています。



県南

八原サッカースポーツ少年団

朝比奈 尚生



八原サッカースポーツ少年団は龍ヶ崎市を中心に活動するサッカーチームです。1年生から6年生まで活動しています。当団の特徴の一つは、全員試合に出場するということです。スタメン、サブという括りを無くしています。試合でずっとベンチで、途中少



しだけ出て一日が終わる、ということはありません。そのおかげでクジ運にも恵まれましたが、2019年には5年生、4年生が県2位という結果を残しました。もう一つの特徴としては、横だけでなく縦の繋がりが強いということです。6年生が低学年生と遊んだり、一緒に練習したりもしますので、みんな仲良しです。

また数年前にチームの子が病気で亡くなり、追悼試合を毎年、OBを含め現役全員で150名くらいが集まり開催しています。

県南

利根スターズスポーツ少年団

佐々木 光善

1986年から『団員の健全な心身の育成と親睦を深めることを目的とする』利根町スポーツ少年団本部規約をもって、活動が始まり今年で35年目となりました。県内でも人口が少ない町でありながら小学校が5校あり、スポーツの盛んな活気あふれる大勢の子どもたちがいました。当時のスポーツ少年団は、野球が7団体、ミニバスケットボール3団体、サッカー2団体、陸上・剣道他で15団体と、大勢の子供たちが各団体に入団していました。その中から、甲子園出場を果たし、そしてプロ野球に入団した選手が誕生したことは、大変うれしい事でした。

現在は、小学校の統合により3校となり、少子化等の影響で団体も5団体と大きく減少し、非常に難しい状況です。ここで簡単に各スポーツ少年団の活動内容を報告します。文間スポーツ少年団は、県内の陸上選手権、マラソン、駅伝大会で活躍しています。利



根スターズ（野球）は、IB A茨城国際交流協会に加盟し、台湾遠征、各大会、リーグ戦等に参加しています。利根フェニックス（野球）も、千葉県の各大会に出場しています。利根キッカーズ（サッカー）は、スポーツ少年団スポーツ大会等の各大会に参加する他、自チームで利根大会を主催しております。布川フレンズ（ミニバスケットボール）は、つくば市、取手市等の各大会に参加しております。

新型コロナウイルスの影響で、各大会イベント等が中止

県西

スマイルキッズスポーツ少年団

監督 鈴木 伸一



順延となり大変な時期ではありますが、健やかな成長を願っています。

いながら、頑張っていきたいと思っております。

スマイルキッズは、現在2年生から6年生までの女子、計16名で活動しているバレーボールスポーツ少年団です。平日練習に加え、土曜、日曜日は各大会への参加や練習試合など交流戦も積極的に行い、技術面・精神面共にスキルアップできるよう日々努力しています。

バレーボールを通して、丈夫な身体と豊かな心を養い、

協調性・自立性を身に付け、また、団体行動の中から助け合う思いやりの心を学んでもらいたいと指導者・保護者が一丸となってサポートしています。

昨年の夏、2年ぶり2回目となる全日本バレーボール小学生大会に出場することができました。この大会は、小学生バレーボールチームが目指す最も大きな大会で、素晴ら



我々、前河原ジュニアーズは、学童野球チームです。県

県西

前河原ジュニアーズ
スポーツ少年団

監督 染谷剛

西地区の常総市に位置し、1982年に創設、今年で39期を迎えました。現在

1年生から6年生まで20名在籍し、土日祝日を活動日とし、日々一生懸命練習に取り組んでいます。指導で心がけているのは、野球を楽しむでもらうことを根底に、野球を通して子どもたちの心と身体の鍛錬と、チームワークの大切さを学んでもらうことです。

今年は新型コロナウイルス感染症の影響

しい夢の舞台です。団員たちはここで、全国ベスト8という成績を残すことができました。この結果は、団員の日々の弛まぬ努力があったことはもちろんですが、団員指導者・保護者が一体となり積み取った栄光です。また、このような経験は、一つの事に真剣に向き合い、日々鍛錬している

者のみが味わえる、一生の喜びになったように思います。未来ある子どもたちの可能性を広げ、明るく楽しく・仲良く・元氣いっぱい活動する子どもたちが、再び全国大会を経験できるように、これから一歩一歩目標に向かって歩んでいきたいと思っています。

日本スポーツ少年団 団員綱領

1. わたくしたちは、スポーツをとおして健康なからだを心で養います。
1. わたくしたちは、ルールを守り、他人に迷惑をかけない、りっぱな人間になります。
1. わたくしたちは、スポーツによって、自分の力を伸ばす努力をします。
1. わたくしたちは、スポーツのよろこびを学び、友情と協力を大切にします。
1. わたくしたちは、スポーツをとおして世界中の友だちと力をあわせ、平和な世界をつくります。

で、多くの大会が中止となり、6年生にはとても厳しい年となっていました。しかし、一度は中止となっていた高円宮賜杯マクドナルド・トーナメント茨城県大会が開催することとなり、練習時間が制限される中で、前河原ジュニアーズ伝統の「気合いと根性」で、厳しくも楽しい練習を6年生を中心に一生懸命励み、県大

会ではチームワークを武器に5試合を勝ち抜き、悲願の初優勝を成し遂げることができました。これも日頃の子どものたちの頑張り、一体感をもって大会に望めたことが、最高の結果に繋がったと思います。最後になりますが、これから野球を通じて、子どもたちが成長していく姿を楽しみに指導に励んでいきます。

編集後記

今年、新型コロナウイルス感染症拡大によって、スポーツ界にも大きな影響を与えました。

今まで当たり前に出ていたことが、そうではなくなり、学校の休校、部活動の自粛など、スポーツ少年団においてもある期間、活動自粛が余儀なくされました。

ほとんどの大会や行事が中止となり、子どもたちにとっても厳しい年になりました。来年度は、新型コロナウイルス感染症の終息、そして新しい生活スタイルの中で、少しでも多くのスポーツ活動が安全に行えることを願うばかりです。

最後に、広報誌の発行にあたり、ご多用のところ本誌への寄稿・写真提供にご協力いただいた方々に心から御礼を申し上げます。

普及・広報委員会

委員長 川島 信義
副委員長 米川 優
委員 谷島 幸雄
友部 静江
水野 幸男
井坂 一広
西村 聡之



スポーツ安全保険

文化活動も加入出来ます

対象となる事故 団体活動中の事故／往復中の事故
保険期間 令和3年4月1日の午前0時から令和4年3月31日午後12時まで



公益財団法人 スポーツ安全協会 茨城県支部

TEL 029-297-7600 電話受付時間 午前8時30分～午後5時(土、日、祝日を除く。)

保険の詳細内容、資料の請求は、ホームページをご覧ください。
ご加入はインターネットからのお手続きが便利です。

スポーツ安全保険

検索